

戦時下の市民生活と 川崎大空襲

オープニングイベント 3月7日(土)13:30～ 川崎市平和館 1階屋内広場

- ① 親子平和推進事業
東住吉小学校の生徒が平和について学び、考えたことを発表します。
- ② 戦争体験を語る・聞く
川崎大空襲の体験者から当時のお話を聞きます。

参加費無料

申込不要

増産に励む動員女学生

令和8年

3月7日(土)～5月10日(日) 川崎市平和館1階屋内広場

9:00～17:00

(月曜日と第3火曜日は休館。ただし5月は7日のみ休館となります)

入場無料

【主催】川崎市平和館

【協力】公文書館、世田谷区立平和資料館、明治大学平和教育登戸研究所資料館

【問合せ】川崎市平和館 川崎市中原区木月住吉町 33-1 電話：044-433-0171

戦時下の市民生活と 川崎大空襲

戦前、川崎市では重化学工業を中心とした産業が発展し、軍需生産においても重要な役割を果たしていました。そのため、川崎市は空襲の攻撃目標とされました。

「川崎大空襲」と呼ばれる、昭和20（1945）年4月15日の空襲では、B29爆撃機194機が来襲し、焼夷弾12,748発（1,072トン）、高性能爆弾72発（18トン）、しょういだん 焼夷弾 こうせいのはくだん 高性能爆弾 はさいせいばくだん 破砕性爆弾98発（20トン）が投下されました。

この爆撃によって、川崎市の中心部は市役所などを残して一面の焼野原となってしまいました。その被害は、全半焼壊家屋33,361戸、同工場等287、罹災者は10万人を超えました。また、川崎市が空襲で出した死者約1,000人、負傷者約15,000人の大半は、この大空襲によるものとみられます。

今回の川崎大空襲記録展では、市民の耐久生活や学生・児童の日常生活を、写真や実物資料などで紹介します。

御来館の皆様には平和と戦争を考える機会としていただければ幸いです。



焼け跡に建つバラック小屋（渡田新町から市役所方面を撮影）

川崎大空襲記録展

3月7日（土）～5月10日（日）

川崎市平和館 1階屋内広場

特別展示 1

鮭の革で作った子供の靴

（世田谷区立平和資料館所蔵）

期間限定：3月7日（土）～3月15日（日）



特別展示 2 絵画キッズゲルニカ

東住吉小学校の生徒が描いた縦2m×横3mの絵画をオープニングイベント開催に合わせて展示します。

期間限定：2月28日（土）～3月15日（日）

アクセス

JR線・東急線「武蔵小杉駅」、

東急線「元住吉駅」から徒歩約10分

※駐車場が狭いため、公共交通機関をご利用下さい。

